

令和6年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる児童を育成する。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①言語活動の状況

(授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている割合)

R4 95.3%→R5 100%

50%以下の学校が減り、地域差や学校ごとの差が徐々に解消されてきた。

②パフォーマンステストの実施状況

「話すこと[やり取り]」 100%

「話すこと[発表]」 100%

パフォーマンステストによって学習状況を把握し、指導と評価の改善を図ることができた。

未だ改善が必要な点

①CAN-DOリストの活用状況

設定、公表、達成状況の把握

R4 R5ともにすべて 100%

しかし、見直しやさらなる活用が各学校において必要である。

②英語の授業におけるICT機器の活用状況 (50%以上の授業で実施した割合)

「児童が一人一台端末等を活用」

R4 34.1% → R5 31.4%

「児童が学習者用デジタル教科書を活用」

R5 32.3% (新設)

いまだICT機器の活用の場面が限られている。

2. 要因分析

①県内7地方の地方別外国語教員研修において、事前に学習指導案を検討したり、英語専科による授業を公開するとともに異校種の教員も参加して協議を実施したりしたところ、校種間の指導方法や学習内容の理解が深まり、小・中学校ともに言語活動の割合状況が改善したことが一因と考えられる。

②上記研修において、学習到達目標を見取るためのパフォーマンステストの研究及び成果の普及が進んでいる。

①上記研修等において、CAN-DOリストの意義を教員に伝えるとともに、市町村教委との連携による効果が出ている。しかし、新しい教科書に応じたCAN-DOリストの見直しが必要であるとともに、小・中学校の円滑な接続や系統性に配慮したCAN-DOリストの作成及び効果的な活用が必要である。

②上記研修の2地方において学習者用デジタル教科書を活用した授業を公開したが、引き続きICT機器の効果的な活用方法の研究及び好事例の共有が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②「英語教育における小中連携推進事業」において、県内2地域を小中連携推進地域として指定し、連続性と系統性を持った効果的な指導方法や評価方法の研究を行い、その成果の普及により、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力及び教員の指導力向上を図る。

(内容) ・情報交換及び授業実践

・小・中学校の円滑な接続や系統性に配慮したCAN-DOリストの作成及び授業実践

・公開授業、実践発表等による研究成果の普及

※研究成果をHP等で公開することにより、小中高の連携を推進する。

①②①中学生対象の英検IBAへの接続として小6を対象に英検ESGを活用することにより、学習到達目標の児童との共有や、達成状況の把握を学習評価につなげていく方法等を学び、実践的授業力の向上を図る。

・一定の英語力を有する教員を確保するため、教員採用試験において加点制度を設けている。また、英語の技能検定の成績等による免除も実施し、英語力を有する教員の確保に努めている。

【新規採用に係る取組】

令和6年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる生徒を育成する。

OCEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R 5 : 5 1.3 % → R 6 : 5 4.0 %)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①言語活動の状況（授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている割合）

R4 91.6% → R5 95.6%

50%以下の学校が減り、地域差や学校ごとの差が徐々に解消されてきた。

②①生徒の英語力

CEFR A1レベル相当以上

R4 51.1% → R5 51.3%

R5の目標（53%）は達成できなかったが、経年的にみると向上している。

全国学力・学習状況調査

R5和歌山県平均正答率 44%

全国と比べて「聞くこと」・「読むこと」の領域に課題がある。

③②CAN-DOリストの活用状況

設定、公表、達成状況の把握

R4 R5ともにすべて100%

学習到達目標の設定等が進んでいる。しかし、CAN-DOリストの見直しや効果的な活用が各学校において必要である。

③英語の授業におけるICT機器の活用状況（50%以上の授業で実施した割合）

「生徒が一人一台端末等を活用」

R4 35.3% → R5 40.9%

「生徒が学習者用デジタル教科書を活用」

R5 36.5%（新設）

いまだICT機器の活用の場面が限られている。

2. 要因分析

①県内2地方において実施した中学校英語教員研修において、学力調査官による「全国学力・学習状況調査（英語）を踏まえた学習指導の改善と充実」と題した講義・演習や教員による「『生徒が主役になれる』授業を目指して」と題した実践発表により、言語活動を通じた授業づくりの理解が深まり、言語活動の割合状況が改善したと考えられる。

②①外部検定試験等（中3対象に英検、中1・2対象に英検IBA）を活用することにより、生徒の英語学習意欲の向上と、学習定着状況の把握による授業改善が進んだ。今後は各校における課題の分析によるさらなる授業改善が必要である。

③②研修や学校訪問等において、CAN-DOリストの意義を教員に伝えとともに、市町村教委との連携による効果がでている。今後はさらに小・中学校の円滑な接続、系統性に配慮したCAN-DOリストの作成及び効果的な活用が必要である。

③研修や学校訪問等において学習者用デジタル教科書の活用事例等について紹介したが、本文の音読や新出単語の確認等の活用等に場面が限られている。引き続きICT機器の効果的な活用方法の研究及び好事例の共有が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③①②③「英語教育における小中連携推進事業」

県内2地域を小中連携推進地域として指定し、連続性と系統性を持った効果的な指導方法や評価方法の研究を行い、その成果の普及により、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力及び教員の指導力向上を図る。

（内容）・情報交換及び授業実践

・小・中学校の円滑な接続や系統性に配慮したCAN-DOリストの作成及び授業実践

・公開授業、実践発表等による研究成果の普及

※研究成果をHP等で公開することにより、小中の連携を推進する。

②①中学生対象の英検IBAを継続して活用することで、生徒の学習意欲の向上と、学習定着状況の把握による授業改善を図る。小6対象の英検ESGの結果分析を小中で共有する。

①②③①②③「指導力向上に係る研修（中学校教員研修）」英語の授業を担当している全ての中学校教員を対象に研修を実施することにより、学力向上の取組について共通理解を図るとともに、教員一人一人の指導力・授業力を高める。

（内容）・全体研修会（2会場）

・中核教員研修会（3回）単元構想、授業づくり、指導案検討等

・地方別研修会（8地方）：中核教員による提案授業等

令和6年度 和歌山県 英語教育改善プラン

目標

グローバル社会において活躍するために、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることのできる語学力・コミュニケーション能力・国際理解の精神などを身に付けた人材を育成する。
○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上48.0%、B1以上 17.7% → R6 : A2以上 54%、B1以上 20%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力
(CEFR A2レベル相当以上
R4:47.1⇒R5:48%)
- ②教員の英語力
(CEFR B1レベル以上
R4:71.2⇒R5:75.8%)

未だ改善が必要な点

- ①授業における言語活動時間の状況
(R4:57.9%⇒R5:48.8%)
- ②英語担当教員の授業における英語使用状況
(R4:45.6%⇒R5:42.7%)
- ③「CAN-DOリスト」形式による学習到達度目標の公表
(R4:28.3%⇒R5:38.3%)

2. 要因分析

- ①外部専門機関と連携し、英語教員の研修会において、生徒のコミュニケーションを図る資質・能力を高めるための指導方法を普及できた。
- ②英語力を高めるための自主研修の在り方について、研修会等において指導し、特別受験制度の活用を促して積極的に外部試験を受験するよう指導した。

- ①校種間連携を図り、公開授業等を通して、英語担当教員が言語活動が中心となる授業づくりの重要性を再認識し、授業改善への意識を高められるような機会が十分ではなかった。
- ② ③生徒が英語に触れる機会の充実や「CAN-DOリスト」形式による学習到達度目標の公表の必要性について指導することが十分ではなかった。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①和歌山県高等学校教育課程研究協議会において、協議・情報交換等の一層の充実を図るとともに、和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において効果的な研修を計画する。また、和歌山県高校生英語ディベート大会における参加生徒数の増加を目標にし、各学校に呼びかける。スタンフォード大学遠隔講座においては講座内容の更なる充実を図ると同時にアジア・オセアニア高校生フォーラムへの参加生徒の英語力向上を目指す。

- ①②③和歌山県高等学校教育課程研究協議会及び和歌山県高等学校英語授業改善研究協議会において、生徒の英語による言語活動時間の割合及び英語担当教員の授業における英語使用状況が改善する内容を検討するとともに、「CAN-DOリスト」形式による学習到達度目標の公表の必要性や、「CAN-DOリスト」の活用について周知する。
異校種の公開授業、実践発表等の研究成果をHP等で公開することにより、小中高の連携を推進する。

和歌山県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	48	54		56		58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	17.7	24		26		28		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	48.8	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	38.2	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	38.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	59.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		80	75.8	77		78		79		80	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	42.7	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		53	51.3	54		56		58		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	95.6	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	35.1	50		50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	95.1	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	